

# 英雄の器

芥川龍之介

青空文庫



「何しろ項羽こううと云う男は、英雄うつわの器うつわじやないですか。」

漢かんの大将呂馬通りょばつうは、ただでさえ長い顔を、一層長くしながら、疎な髭まばらひげを撫なでて、こう云つた。彼の顔のまわりには、十人あまりの顔が、皆まん中に置いた燈火ともしびの光をうけて、赤く幕營の夜の中にもうき上つている。その顔がまた、どれもいつになく微笑を浮べているのは、西楚せいその霸王はおうの首をあげた今日の勝戦かちいくせんの喜びが、まだ消えずにいるからであろう。

「そうかね。」

鼻の高い、眼光の鋭い顔が一つ、これはやや皮肉な微笑を唇頭に漂わせながら、じつと呂馬通りょばつうの眉の間を見ながら、こう云つた。呂馬通は何故か、いささか狼狽ろうぱいしたらしい。「それは強いことは強いです。何しろ塗山とざんの禹王廟うおうびょうにある石の鼎かなえを上げると云うのですからな。現に今日の戦いくさでもです。私は一時命はないものだと思いました。李佐りさが殺され、王恒おうこうが殺される。その勢いと云つたら、ありません。それは実際、強いことは強いですな。」

「ははあ。」

相手の顔は依然として微笑しながら、鷹揚に頷いた。幕営の外はしんとしている。遠くで二三度、角の音がしたほかは、馬の嘶く声さえ聞えない。その中で、どことなく、枯れた木の葉の匂がする。

「しかしです。」呂馬通は一同の顔を見廻して、さも「しかし」らしく、眼ばたきを一つした。

「しかし、英雄の器じやありません。その証拠は、やはり今日の戦ですな。烏江に追いつめられた時の楚の軍は、たつた二十八騎です。雲霞のような味方の大軍に対し、戦つた所が、仕方はありません。それに、烏江の亭長は、わざわざ迎えに出て、江東へ舟で渡そうと云つたそうですな。もし項羽に英雄の器があれば、垢を含んでも、烏江を渡るです。そうして捲土重来するです。面目なぞをかまつている場合じやありません。」

「すると、英雄の器と云うのは、勘定に明いと云う事かね。」

この語につれて、一同の口からは、静な笑い声が上つた。が、呂馬通は、存外ひるまない。彼は鬚から手を放すと、やや反り身になつて、鼻の高い、眼光の鋭い顔を時々ちらりと眺めながら、勢いよく手真似をして、しゃべり出した。

「いやそう云うつもりじやないです。——項羽はですな。項羽は、今日戦の始まる前に、

二十八人の部下の前で『項羽を亡すものは天だ。人力の不足ではない。その証拠には、これだけの軍勢で、必ず漢の軍を三度<sup>さんど</sup>破つて見せる』と云つたそうです。そうして、実際三度どころか、九度<sup>くたび</sup>も戦つて勝つてゐるです。私に云わせると、それが卑怯<sup>ひきょう</sup>だと思うのですな、自分の失敗を天にかずける——天こそいい迷惑です。それも烏江<sup>うこう</sup>を渡つて、江東の健児を糾<sup>きゆう</sup>合<sup>こう</sup>して、再び中原<sup>ちゅうげん</sup>の鹿を争つた後でなら、仕方がないですよ。が、そうじやない。立派に生きられる所を、死んでいるです。私が項羽を英雄の器でないとするのは、勘定に暗かつたからばかりではないです。一切を天命でごまかそうとする——それがいかんですな。英雄と云うものは、そんなものじやないと思うです。蕭丞相<sup>しょうじょうしよう</sup>のような学者は、どう云われるか知らんですが。』

呂馬通は、得意そうに左右を顧みながら、しばらく口をとざした。彼の論議が、もつともだと思われたのであろう。一同は互に軽い頷きを交しながら、満足そうに黙つてゐる。すると、その中で、鼻の高い顔だけが、思いがけなく、一種の感動を、眼の中に現した。黒い瞳が、熱を持つたように、かがやいて来たのである。

「そうかね。項羽はそんな事を云つたかね。」

「云つたそうです。」

呂馬通は、長い顔を上下に、大きく動かした。

「弱いじゃないですか。いや、少くとも男らしくないじゃないですか。英雄と云うものは、天と戦うものだろうと思うですが。」

「そうさ。」

「天命を知つても尚、戦うものだろうと思うですが。」

「そうさ。」

「すると項羽は——」

劉邦(りゅうほう)は鋭い眼光をあげて、じつと秋をまたたいている燈火(ともしび)の光を見た。そして、半ば独り言のように、徐(おもむろ)にこう答えた。

「だから、英雄の器だつたのさ。」

## 青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1986（昭和61）年10月28日第1刷発行

1996（平成8）年7月15日第11刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力・j.utiyama

校正・かとうかおり

1998年12月7日公開

2004年3月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

# 英雄の器

## 芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

### 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>